

台東区区民憲章策定区民会議 班別会議 第3班  
第1回（平成17年9月29日）の主要意見

区民憲章の検討の進め方について

- 若者や障がい者にも伝わりやすい、魅力的で優しい表現であるべき
- \* 障がいを持っている方にも伝わる優しい言葉を持った憲章にしたい。
  - \* 若い人にも魅力的な文言が必要である。

- 台東区の良い部分が伝わる憲章がよい。まちづくり分野を重視すべき。
- \* 台東区の悪い部分でなく、良い部分が伝わる憲章にしたい。
  - \* 憲章の目的は、まちづくりの目標を協働生産するもの。

台東区らしさについて

- 全国的な知名度を持つまちの存在
- \* 上野や浅草など全国的な知名度を持つまちの存在。
- 一方で、台東区のイメージははっきりとしない。

- 優しいまち
- \* 都会なのに都会らしくないイメージ。
  - \* 歩いてまわれる優しいまち。
- 一方で、優しさや近所づきあいが近年、失われつつある。

- 人が集まるまち
- \* 外の人を受け入れる親しみやすさ、おつきあいの良さ、人を集まりやすくする生活感。
  - \* 上野の終着駅としての拠点性。
- 一方で、若者に魅力あるまちと言えるか？子どもの減少に対する未来への不安がある。

- 文化と伝統を軸としたまち
- \* 特筆すべき、幅広い分野にわたる歴史・文化・伝統の蓄積（上野の歴史的建造物、谷中の寺社、伝統工芸、落語などの芸能など）。
- 一方で、台東区民としての自覚と誇りが薄れつつある。

- 祭りの多いまち・美味しいまち
- \* 高齢者、若者、子ども、台東区出身者など、様々な世代が集まる祭り
  - \* グルメブームを受けた、美味しくレトロで祭りで賑わうまち
- 一方で、高齢化の進展、ホームレス問題などの懸念材料がある